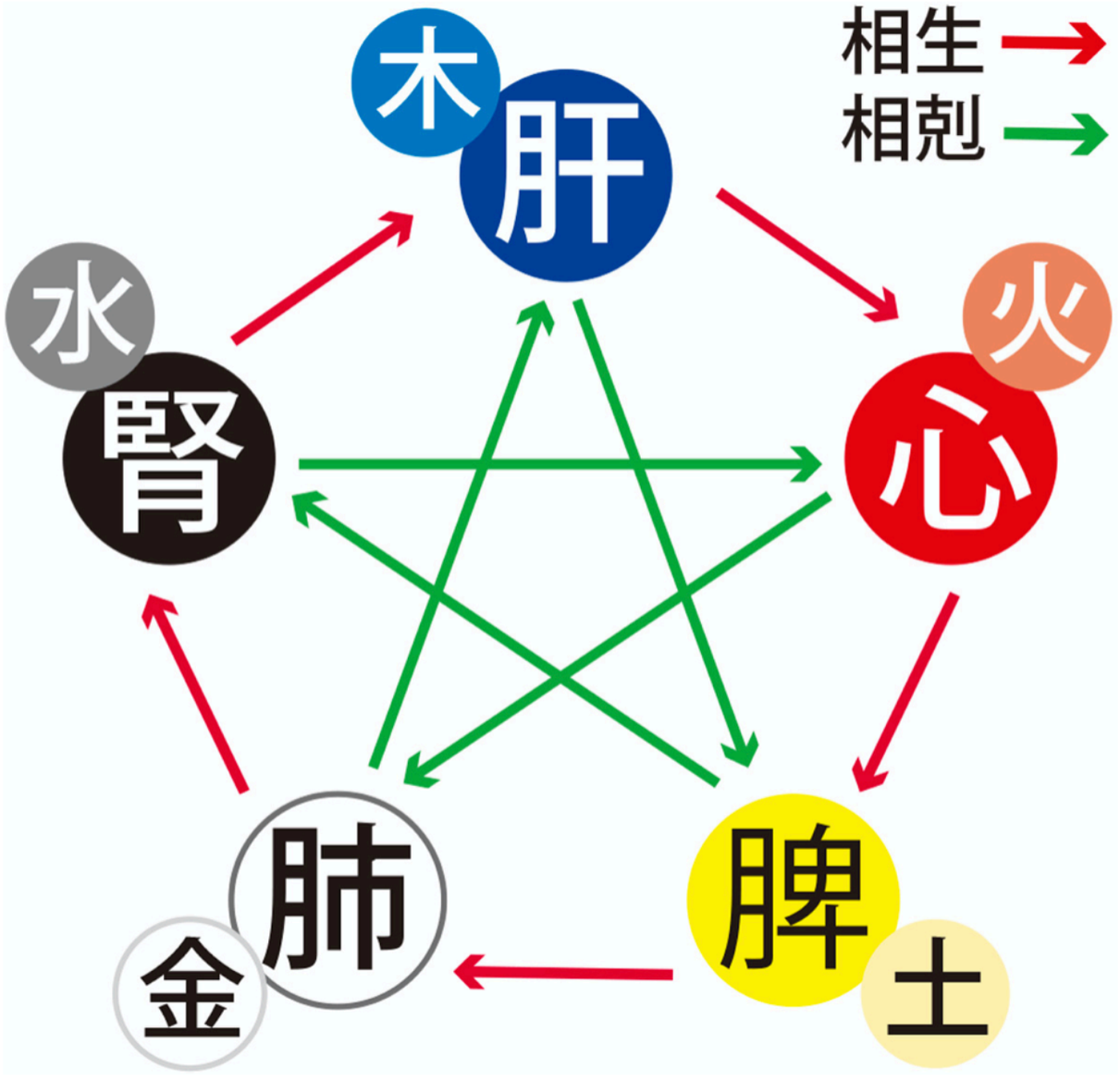
# 第22回　漢方相談員養成講座




12月6日（月）　インスタライブ

12月7日（火）　ZOOM講義

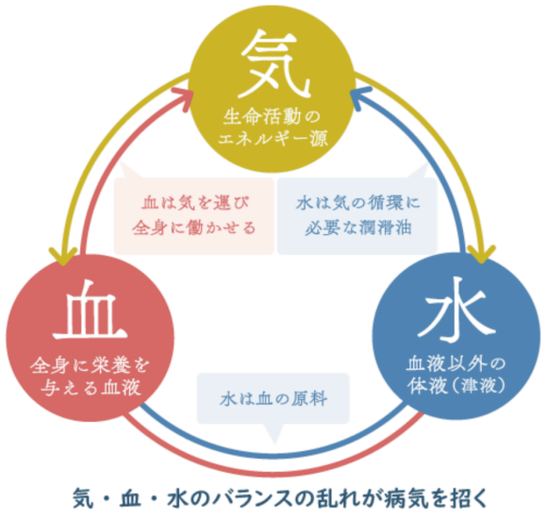
19:30開始

## 臓腑弁証
## 「腎・膀胱」

# 臓腑弁証とは

## ①八綱弁証

**表・裏　寒・熱　虚・実　（陰・陽）**



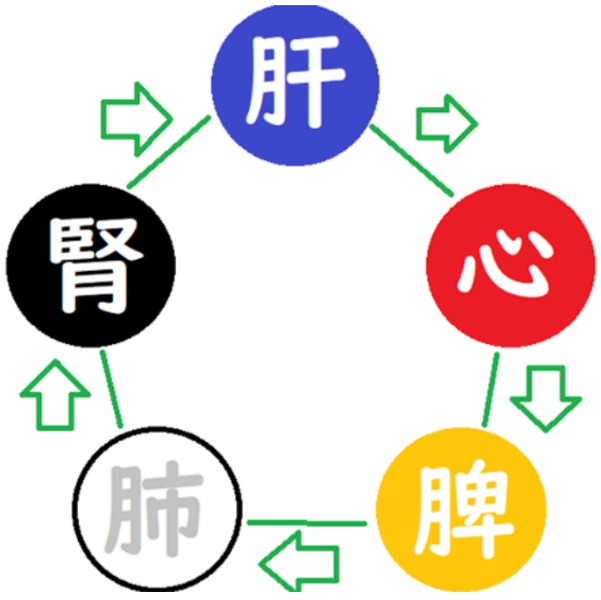
気・血・水のバランスの乱れが病気を招く

## ②気血津液弁証

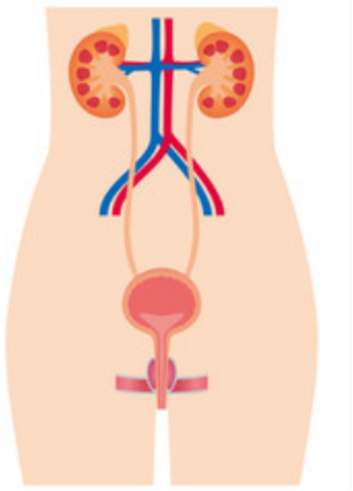
**体の構成成分である気・血・津液のどれが異常なのか**

## ③臓腑弁証

**五臓六腑のどこに異常があるのか**



# 五臓⑤ 腎



作強の官

封蔵を司る

水火の宅





①蔵精、発育と生殖を主る

②水を主る

③納気を主る

五志：怖

五液：唾

五主：骨（髄を生ず）

五華：髪

表裏：膀胱

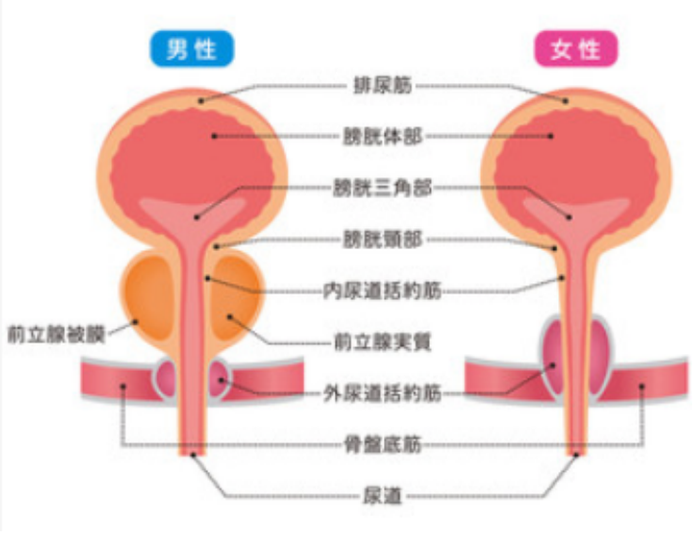
五竅：耳、二陰

# 膀胱　ぼうこう

腎　膀胱

## 貯尿と排尿

**膀胱の開閉や排尿量の調節は、**
**腎が主る固摂・気化作用で統轄される**




体内

再吸収

腎

固摂作用
こせつさよう

調節

気化　尿液 → 膀胱 — 排泄 → 尿

# 腎膀胱の生理と病理

**①主水機能の失調**

**排尿困難・頻尿・失禁・排尿痛・血尿**

**②主先天及び蔵精と失調**

**老化現象・生殖能力の衰え・足腰の衰え・歯が抜ける・認知症・月経不順・不妊・インポテンツ・耳鳴り・難聴・健忘・眩暈・頭痛及び中枢疾患系の疾患**

**封蔵作用が低下すると**

**崩漏・流産・夢精・夜間頻尿・失禁などが現れる**

**③主納気とその失調**

**呼多吸少（呼吸困難）**







# 腎膀胱の生理と病理②

**腎は封蔵作用を元に蔵精を行っていることから、**
**「ただ固蔵に適し、外泄に適さない」腎病の多くは精気が不足して起こる虚証として出現する。**
**これに対して膀胱は腎から輸送された不要な水液である尿を貯蔵するためその病証は実証となる**
**腎膀胱の主な病証は実証に属する「膀胱湿熱証」**
**虚証に属する「腎陽虚証」「腎気不固証」「腎不納気証」「腎精不足証」**
**「腎陰虚証」「腎陰陽両虚証」**

**腎は陰陽失調を起こしやすく、臨床では腎気虚証の状態が継続する事は少なく、すぐに腎陽虚証に発展する**





# 膀胱湿熱証



【病因病機】

飲食不節で生まれた湿熱が、脾胃から膀胱に下注するか、（下方に注ぎ込むこと）あるいは寒いところで排尿を我慢していて膀胱内に鬱積した尿が熱化すると起こる

【病状特性】

実証に属するため急性で激しい排尿異常の症状が現れ、小腹の脹満や排尿時に尿道の灼熱感が現れ、場合によって腰痛や発熱を伴う

【治法　方薬】

清利膀胱( 猪苓湯　痛みが強い場合は五淋散)

# 猪苓湯　ちょれいとう

猪苓　ちょれい
沢瀉　たくしゃ
茯苓　ぶくりょう

→ 利水三兄弟と覚えてください

滑石　かっせき → 清熱利水通淋
阿膠　あきょう → 滋陰潤燥・止血

五苓散に似ていますが、
湿熱証や血淋に使われる処方です

# 五淋散　ごりんさん

赤茯苓　あかぶくりょう
山梔子　さんしし
赤芍　せきしゃく
当帰　とうき
生甘草　なまかんぞう
黄芩　おうごん
生地黄　しょうじおう
滑石　かっせき
車前子　しゃぜんし
沢瀉　たくしゃ
木通　もくつう

→ 清熱瀉火・利水通淋
→ 涼血散瘀・活血止痛
→ 瀉火解毒・緩急止痛
→ 清熱
→ 利水通淋

清熱涼血・利水通淋

# 腎陽虚証　じんようきょ



【病因病機】

加齢や先天不足で腎気が不足するか、あるいは慢性の寒性病などで腎陽が損耗すると起こる。腎の気虚はすぐに陽虚に発展するため、臨床で腎気不足も腎陽虚証として出現する。

【病状特性】

インポテンツや不妊などの性機能の低下や主水作用の減退による症状(排尿困難・頻尿・失禁など)が多く見られ、冷えによって症状が増悪する。また、場合によって五更泄瀉が現れる

【治　法】

温補腎陽　おんほじんよう　八味地黄丸、牛車腎気丸、海馬補腎丸

# 陰陽互根　いんようごこん



陽中求陰　ようちゅうきゅういん

陽虚に対して陽を補う以外に
陰を少々補うこと

陰中求陽　いんちゅうきゅうよう

陰虚に対して陰を補う以外に
陽を少々補うこと

# 八味地黄丸　はちみじおうがん

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 熟地黄 | じゅくじおう | → | 滋補腎陰 | 三補 |
| 山茱萸 | さんしゅゆ | → | 養肝益腎 | |
| 山薬 | さんやく | → | 滋腎補脾 | |
| 牡丹皮 | ぼたんぴ | → | 清肝火 | 三瀉 |
| 沢瀉 | たくしゃ | → | 瀉腎濁 | |
| 茯苓 | ぶくりょう | → | 利水健脾 | |
| 桂枝 | けいし | → | 通陽 | |
| 附子 | ぶし | → | 温補腎陽 | |

三補三瀉の六味丸に桂枝と附子を加えた形です

# 牛車腎気丸　ごしゃじんきがん

**八味丸　＋**

**牛膝　ごしつ**

**車前子　しゃぜんし**

八味丸に補腎・利水消腫の
牛膝と車前子を加えた形です

# 海馬　かいば



ヨウジウオ科オオウミウマなどの内臓を除去した物

性味　甘、温

帰経　肝・腎

①補腎壮陽・納気平喘・止遺尿

腎陽虚のインポテンツに淫羊霍・鹿茸・杜仲などと用いる

遺尿には、桑螵蛸・人参・胡桃肉などと使用する

②調気活血

難産に、単味の粉末を服用する

# 助陽薬

助陽薬は陽虚を改善する薬物であり、心陽、脾陽虚にも使用する。具体的には元気が無い・寒がる・四肢の冷えインポテンツ・不妊・遺精・頻尿・食欲不振・腹の冷え泥状便などがそれぞれ現れる







# 杜仲　とちゅう



**トチュウ科のトチュウの樹皮**

**性味　甘・温**

**帰経　肝・腎**

**① 補肝腎・強筋骨**

**肝腎不足の腰や膝がだるく無力・腰痛に、続断・狗脊・補骨脂・胡桃肉などと使用する**

**腎陽虚のインポテンツ・勃起不全・頻尿などには、補骨脂・菟絲子・牛膝などと用いる**

**②固経安胎**

**肝腎不足による崩漏（不性器出血）・習慣性流産や胎漏（妊娠中の性器出血）・胎動（妊娠中の下腹部痛）に、続断・桑寄生・白朮などと使用する**

# 続断　ぞくだん



## マツムシソウ科の根

## 性味　苦・甘・辛、微温

## 帰経　肝・腎

**①補肝腎・活絡止痛**

**肝腎不足・血脈不利の腰や膝がだるくて痛む・下肢無力などの症候に、杜仲・牛膝・補骨脂などと用いる**

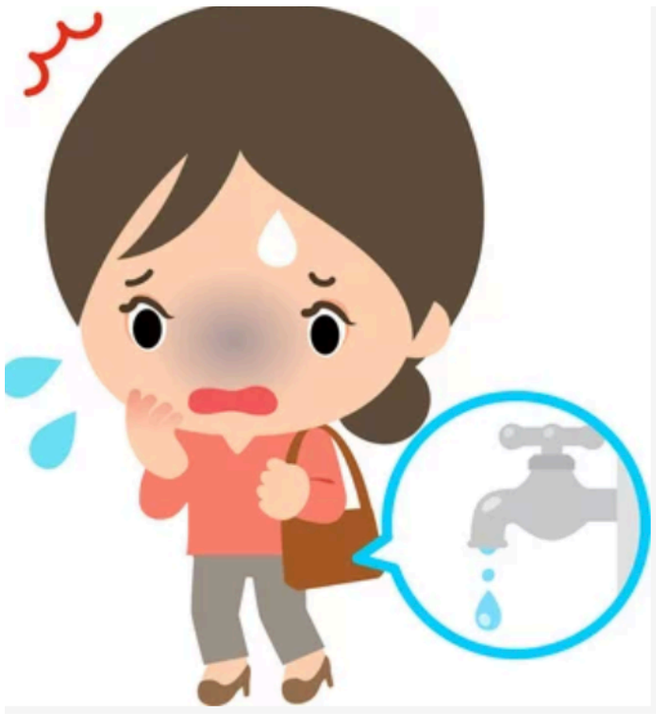
**②通血脈・続筋骨**

**打撲損傷・挫傷・捻挫・骨折などに、乳香・没薬・蠐虫・骨砕補などと膏し概要する**

**③固経止崩・安胎**

**肝腎不足による崩漏（不性器出血）あるいは胎漏（妊娠中の性器出血）胎動（妊娠中の下腹部痛）に、熟地黄・当帰・阿膠・艾葉・桑寄生・菟絲子などと用いる**

# 腎気不固　じんきふこ



【病因病機】

腎気や腎陽の損耗による腎機能減退が封蔵作用に強く出て
蔵精や貯尿ができなくなって起こる

【病状特性】

封蔵作用が特に減退して、腎精を固蔵できないため、滑精・早泄（早漏の事）胎動不安（胎児が不安定になり流産しやすい）などの症状が顕著になる

## 【治　法】

補腎固渋　ほじんこじゅう

八味地黄丸、六味丸　＋補中益気湯

# 補中益気湯　ほちゅうえききとう

黄耆　おうぎ
柴胡　さいこ
升麻　しょうま

→ 補気昇堤　ほきしょうてい

人参　にんじん
白朮　びゃくじゅつ
炙甘草　しゃかんぞう
陳皮　ちんぴ
当帰　とうき

→ 四君子湯の茯苓を抜いた形

→ 理気醒脾　りきせいひ

→ 補血して益気を強める

気を昇堤する作用があります

# 収渋薬　（しゅうじゅうやく）

主に収斂固渋の効能をもつ薬物を収渋薬といい、「収斂薬」「固渋薬」とも呼ぶ
収渋薬の大多数は酸味・渋味であり、斂汗・止瀉・固精・縮尿・止帯・止血・止咳・平喘などの効能を持ち、久病体虚・元気不固などによる自汗・盗汗・久瀉・脱肛・早漏・遺尿・頻尿・帯下・出血・崩漏・久咳・などの症候に有効である









# 五味子　ごみし



マツブサ科の
チョウセンゴミシの成熟果実
性味　酸・温
帰経　肺・心・腎

①斂肺止咳・定喘
肺虚あるいは肺腎両虚の慢性咳嗽・呼吸困難に党参・麦門冬・熟地黄・山茱萸などと用いる
②固表斂汗
陰虚の盗汗あるいは陽虚の自汗に、白朮・党参・浮小麦・牡蠣などと用いる
③益腎固精
腎虚の遺精・頻尿・尿失禁などに、菟絲子・桑螵蛸・竜骨などと使用する。
④渋腸止瀉
脾腎陽虚の五更泄瀉（夜明け前の下痢）や慢性の下痢に補骨脂・肉豆蔻などと用いる
⑤益気生津・止渇
気陰両傷の口渇・疲労感・元気がない・動悸などの症候に、人参・麦門冬などと用いる
生脈散・清暑益気湯

# 芡実　けんじつ



スイレン科のオニバスの成熟種子

性味　甘・渋、平

帰経　脾・腎

①健脾止瀉

脾虚の慢性の泥状～水様便に、党参・白朮・茯苓・山薬などと用いる　資生湯

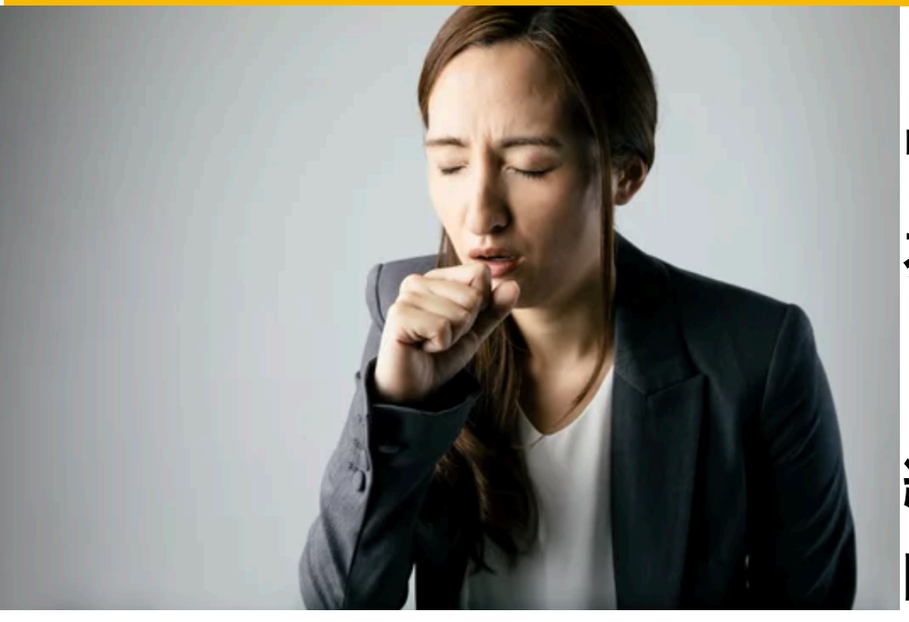
②益腎固精・縮尿

腎虚の遺精・尿失禁などに、金桜子などと使用する　金鎖固精丸

③祛湿止帯

湿熱の帯下には、黄柏・車前子などと用いる

# 腎不納気　じんふのうき



**【病因病機】**

**腎気や腎陽の損耗による腎機能減退が納気作用に強く出た為に起こる**

**【病状特性】**

**納気不足による呼多吸少（吐く息が多く、吸う息が少ない＝吸気困難）、久咳（長期の咳）喘息などの症状が出現する**

## 【治　法】

## 補腎納気　ほじんのうき

## 六味丸　＋蘇子降気湯

# 蘇子降気湯　そしこうきとう

蘇子　そし
半夏　はんげ
前胡　ぜんこ
→ 降気化痰・止咳平喘

厚朴　こうぼく
→ 理気燥湿・平喘寛胸

肉桂　にっけい
→ 温腎散寒・納気平喘

当帰　とうき
→ 養血補肝

炙甘草　しゃかんぞう
大棗　たいそう
生姜　しょうきょう
紫蘇葉　しそよう
→ 和中化痰

# 冬虫夏草　とうちゅうかそう



コウモリガ科の虫の幼虫に麦角菌が寄生し、
子実体を形成した物

**性味　甘、温**

**帰経　肺・腎**

**①滋補肺陰・止血化痰**

**肺陰虚の慢性咳嗽・喀血などの症候に、沙参・麦門冬・阿膠・川貝母などと用いる**

**②益腎陽**

**腎陽虚の腰や膝がだるく無力・インポテンツ・遺精などの症候に、杜仲・淫羊霍巴戟天・肉蓯蓉などと使用する**

**③補虚**

**病後の衰弱・自汗・寒がる・食欲不振などの虚弱症候に、ニワトリ・カモ・ブタなどと用いる**

薬膳でも漢方薬でも重宝される薬材です

# 蛤蚧　ごうがい



ヤモリ科のオオヤモリの内臓を除去して乾燥したもの

**性味　鹹、平。小毒**

**帰経　肺・腎**

**①補肺益腎・納気定喘**

**肺腎不足の慢性咳嗽・吸気性呼吸困難（動くと増強する）などの症候に、人参・胡桃肉・百部・紫苑・五味子などと用いる　人参蛤蚧散**

**②助腎陽・益精血**

**腎陽虚のインポテンツ・遺精・五更泄瀉（夜明け前の下痢）などに、人参・鹿茸・淫羊藿・肉蓯蓉などと使用する**

補腎薬の中でも定喘止咳に優れています。

喘息、咳に良く効きます

# 腎精不足証 じんせいぶそく



【病因病機】

先天的に腎の精気が不足していることによって起こる。
一般には成長が遅い小児や、生殖器の発育が不良で現れる男女の不妊や閉経などの場合に用いられる病証名である。

【病状特性】

腎が関連する生理機能の中では、腎陽虚証とは反対に、骨髄や脳、腰、耳、歯、髪などの滋養不足による症状
（小児の発育遅延や生殖器の発育不良）が中心となって出現する

## 【治法　方薬】

## 補益腎精　ほえきじんせい

## 六味丸　または　杞菊地黄丸　＋補陽の生薬

# 杞菊地黄丸　こぎくじおうがん

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 熟地黄 | じゅくじおう | → | 滋補腎陰 | 三補 |
| 山茱萸 | さんしゅゆ | → | 養肝益腎 | |
| 山薬 | さんやく | → | 滋腎補脾 | |
| 牡丹皮 | ぼたんぴ | → | 清肝火 | 三瀉 |
| 沢瀉 | たくしゃ | → | 瀉腎濁 | |
| 茯苓 | ぶくりょう | → | 利水健脾 | |
| 枸杞子 | くこし | → | 養肝明目 | |
| 菊花 | きくか | → | 平肝明目 | |

三補三瀉の六味丸に養肝の枸杞子と菊花を加えた形です

# 腎陰虚　じんいんきょ



【病因病機】

久病や性生活の不摂生、辛いもの大量に食べた、ストレス過度などが原因で腎陰が損耗し、虚熱状態になっている状態

【病状特性】

腎陰が不足した為に、腎陽を制御出来なくなると、相火が亢盛となり、陰虚内熱や陰虚火旺などの病理的な状態が現れる

【治法　方薬】

知柏地黄丸　ちじばくじおうがん

# 知柏地黄丸　ちばくじおうがん

熟地黄　じゅくじおう → 滋補腎陰
山茱萸　さんしゅゆ → 養肝益腎
山薬　さんやく → 滋腎補脾
→ 三補

牡丹皮　ぼたんぴ → 清肝火
沢瀉　たくしゃ → 瀉腎濁
茯苓　ぶくりょう → 利水健脾
→ 三瀉

知母　ちも
黄柏　おうばく
→ 苦寒瀉火

三補三瀉の六味丸に
滋陰清熱の知母と黄柏を加えた形です

# 旱蓮草　かんれんそう



## キク科のタカサブロウの全草

**性味**　甘・酸、寒

**帰経**　肝・腎

**①養肝益腎・烏髪固歯**

肝腎陰虚の頭のふらつき・めまい・歯の動揺・早期白髪などの症候に、女貞子・桑椹・何首烏などと用いる　二至丹

**②涼血止血**

陰虚火旺・血熱妄行による鼻出血・吐血・喀血・血尿・血便・不性器出血など全ての出血に、生地黄・茅根・等と使用する

# 女貞子　じょていし



**モクセイ科のトウネズミモチの成熟果実**

**性味　甘・苦、涼**

**帰経　肝・腎**

**①滋腎養肝・烏髪明目・清虚熱**
**肝腎陰虚の早期白髪・腰や膝がだるく無力・頭のふらつき・めまい・潮熱などに、**
**旱蓮草・枸杞子などと用いる**
**肝腎不足による視力減退・目がかすむなどの症候に熟地黄・枸杞子・菟絲子・菊花などと用いる**

女貞子＋旱蓮草＝二至丹　の組み合わせで使うことが多いです

# 腎の虚証のまとめ

- 腎精腎気の不足
  - 腎精不足
  - 腎気虚
  - 腎気不固
- 腎陰腎陽の失調
  - 腎陰虚
  - 腎陽虚
  - 腎陰陽両虚

# 亀鹿二仙膠　きろくにせんきょう

| | | |
|---|---|---|
| 鹿角膠 | ろっかくきょう | 真陽を補充 |
| 亀板膠 | きばんきょう | 塡精滋陰 |
| 人参 | にんじん | 大補元気 |
| 枸杞子 | くこし | 滋腎養肝 |

腎の陰と陽を両方補う効能があります

## 桂附八味丸
けいぶはちみがん

附　子　(3)
肉　桂　(3)
］補陽散寒

＋

## 八味地黄丸
はちみじおうがん

附　子　(0.5)
桂　皮　(1)
］補陽散寒

＋

## 牛車腎気丸
ごしゃじんきがん

牛　膝　(3)
車前子　(3)
］利水
補腎・活血
清熱

＋

## 六味丸
ろくみがん

健脾

固渋
補腎益精
（三補）
熟地黄　(5)
山茱萸　(3)
山　薬　(3)

（三瀉）
牡丹皮　(3)
沢　瀉　(3)
茯　苓　(3)
清熱
利水

健脾

＋

知　母　(3)　清虚熱
黄　柏　(3)　清熱化湿

## 知柏地黄丸
ちばくじおうがん

＋

枸杞子　(5)　補腎益精
菊　花　(3)　熄風
］明目

## 杞菊地黄丸
こぎくじおうがん

＋

五味子　(3)　滋陰・平喘・止咳

## 都気丸
ときがん

＋

麦門冬　(6)　滋陰・止咳・化痰

## 麦味地黄丸
ばくみじおうがん

## 腎アプローチ

### 六味丸　ろくみがん

- 熟地黄
- 山茱萸
- 山　薬

補腎益精

- 牡丹皮
- 沢　瀉

清熱

茯　苓　　利水

＋

### 八味地黄丸　はちみじおうがん

- 附　子
- 桂　皮（桂枝）

補陽散寒

### 左帰飲　さきいん

- 熟地黄
- 山茱萸
- 山　薬
- 枸杞子　補腎益精
- 茯　苓
- 炙甘草　調和

＋

### 右帰飲　うきいん

- 附　子
- 肉　桂
- 杜　仲　補陽

### 左帰丸　さきがん

- 熟地黄
- 山茱萸
- 山　薬
- 枸杞子
- 鹿角膠
- 菟絲子

補腎益精

- 亀板膠　滋陰補腎・清熱
- 牛　膝　補腎益精・活血・利水

### 右帰丸　うきがん

- 附　子
- 肉　桂
- 杜　仲
- 当　帰　補血・活血・散寒

# 次回の中医学セミナー

2022年

1月10日（月）　インスタライブ

1月11日（火）　zoomセミナー